

## 競技上の諸注意

- 1 競技は、(公財)日本ソフトテニス連盟「ソフトテニスハンドブック」及び大会要項・大会出場規定に従って行う。マッチは7ゲームとする。天候などの状況により5ゲームとする場合もある。(各都県の委員長会議で決定する。)
- 2 コート割及び進行は別表のとおりとするが、本部の判断で変更をすることがあるので、放送には十分注意する。
- 3 規定のゼッケンを選手は背中に、監督及びコーチは左胸につける。
- 4 選手及び監督・コーチは、アンパイヤーの指示に従う。選手はマッチの開始から終了まで連続的にプレーする。
- 5 選手及び監督(コーチ)はお互いにマナーを尊重し、過度のかけ声または相手プレーヤーを不快にする言動はしない。
- 6 審判のコールの後からポイントが決定するまでの間、発声及び拍手等による応援は禁止する。
- 7 マッチ中のコートにおいて
  - (1) 個人戦は監督(コーチ)1名のベンチ入りを認める。ただし、2ペア以上出場している学校で追加監督(教員また外部指導者)の許可を得ている場合は、それぞれのペアに対し1名の監督(コーチ)のベンチ入りを認める。また、マッチごとに監督が交代するのを認める。
  - (2) 団体戦は監督(コーチ)1名のベンチ入りを認める。
  - (3) ベンチは番号の小さい方の選手(学校)は、サッカー場(北西)側とする。
  - (4) マッチ中の助言は、チェンジサイズ及びファイナルゲームに入る前に所定のベンチで行うことができる。ただし、前のゲーム終了から1分以内に次のゲームを開始する態勢に入るものとする。また、身体上の手当については選手、監督(コーチ)ともに認める。
- 8 異議の申し立ては、選手、監督(コーチ)ともにできない。ただし、質問する事を妨げるものではない。
- 9 使用球は、公認球(白)を使用する。
- 10 個人戦について
  - (1) トスはマッチごとにコート上で行う。
  - (2) マッチ開始前の呼び出しは原則として行わないので進行には十分注意し、前のマッチの開始後選手集合場所に集合する。前のマッチの開始後5分経過しても集合しない場合は、集合の通告(放送)を行う。通告後5分経過で警告1回とし、10分経過で警告2回とする。15分経過で失格とする。ただし、第1マッチについては、11時50分までに指定の集合場所に集合する。
  - (3) 監督(コーチ)のベンチ入りは1マッチ1回のみとして、試合途中でベンチから出た場合、再びベンチに戻ることは認めない。
  - (4) コートへの入場時に、他のコートにおいて同校のペアがマッチ中のため入場できないときは、マッチ途中からのベンチ入りを認める。
  - (5) 監督(コーチ)は、コート内では指定されたベンチに着席し、マッチ中の監督交代は認められない。
  - (6) 選手は監督(コーチ)の助言を受けるために、他のコートに移動してはいけない。
- 11 団体戦について
  - (1) 3ペアの点取り法による対抗戦とし、2回戦以降は2点先取とする。勝敗がついた時点で省略ゲームとする。
  - (2) 1回戦のオーダーは14時00分までにオーダー提出所に提出する。2回戦以降は、対戦相手が決定後、5分以内にオーダーを提出する。マッチ開始前の呼び出しは原則として行わないので進行には十分注意する。
  - (3) 対戦相手が決まっている場合は、オーダー提出後、指定の選手集合場所に集合する。集合しない場合は、集合の通告(放送)を行う。通告後5分経過で警告1回とし、10分経過で警告2回とする。15分経過で失格とする。
  - (4) トスはマッチごとにコート上で開始前に行う。
  - (5) 大会運営上、2面展開等で行うこともある。この時も、監督(コーチ)は1名とする。
  - (6) 選手及び監督(コーチ)は、コート内では指定されたベンチに着席する。ただし、次の試合の選手が、ウォーミングアップのためにベンチの横で身体を動かす程度は認める。(その選手は応援に参加しない。また、器具を持ち込んでのウォーミングアップはしない。)
- 12 選手変更は、個人戦エントリーにおいて急病・けがの場合の1名に限り、受付終了までに書面で各都県委員長が競技委員長に提出し、承認を得る。